

■会議録

会 議	山陽小野田市子ども読書活動推進計画検討委員会（令和3年度第1回）
開催日時	令和4年3月4日（金） 午前9時55分から11時50分まで
開催場所	山陽小野田市立中央図書館2階 第1会議室
出席者	山陽小野田市子ども読書活動推進計画検討委員会委員9名 安光裕子委員、 福重和代委員、 城戸邦之委員、 長尾誠治委員、 棟久光江委員、 松枝志保子委員、 植田真理子委員（以上、来館） 廣重順子委員、 堤千佳子委員（以上、リモート） 事務局5名 山本図書館長、平中中央副館長、坂根厚狭副館長、金子主査、銭谷主任 舩林社会教育課長
欠席者	なし
配付資料	次第、議事資料等
担当課	教育委員会 社会教育課 中央・厚狭図書館
会議内容及び結果	<p>1. 開会</p> <p>2. 社会教育課長あいさつ</p> <p>3. 委員、事務局職員自己紹介</p> <p>4. 議題（委員長が議事進行）</p> <p>（1）第三次計画の取組み状況と成果について</p> <p>館長による資料説明。以下は各委員の発言。</p> <p>委員長：コロナ禍でも前面に出て行って、いろいろなことにチャレンジしているのは素晴らしい。（複数の委員から同様の発言あり。）</p> <p>山陽小野田市には多くの宝（理科大学、村中先生、サビエル高校など）があり、それをうまく活用している。</p> <p>委員：中央図書館では、児童図書の購入財源とするため図書館フェスティバルを行っている。今年は大きなイベントができず収入が少なかったが、「りゅ〜ぽん」が多くの募金を集めてくれた。本計画の中にもフェスティバルの成果を挙げてほしい。</p> <p>館長：第四次計画に掲載する。</p> <p>委員長：相互貸借は県内限定か？ 費用負担は？</p> <p>館長：県外も対象。郵送料は、中国地区内の場合は双方の図書館で片道ずつ負担、中国地区外の場合は往復を借りる側の図書館が負担する。</p> <p>委員：GIGAスクールが普及して、一人一人が使いこなしている。おすすめ本の紹介や図書館だよりの閲覧など、可能性は無限である。</p>

委員：G I G Aスクールで、機器が普及している。植生や本山は中央から遠いので本の紹介などの情報をもたらえると図書館とのつながりを意識できるようになる。コロナ対策で屋外での本読みなどスペースの活用も。

館長：（説明の補足）高校へ出向いておすすめ本の展示も行っている。

委員長：他市にこの取り組みを紹介しているが、高校との連携はハードルが高い。

委員：園児が図書館まつりで人形劇を観て人形劇に興味を持った。出前講座の利用やフォトコンテストへの応募等もしている。保護者の意識が変われば図書館に足が向く。

年長園児は「なぜ？ どうして？」という疑問を持ち、調べものが増えて事典がボロボロになる。図書館で満たしてほしい。

委員：戸外での取り組みはいいなと思った。本園でも「科学」に興味を示す子が多く、それが、疑問を調べて見つけることに発展する。図鑑はボロボロである。

学校同様、保育園にもおすすめ本を提供してほしい。

委員：出前講座を子どもたちが楽しく聞いており、「本が好きになる」を届けている。

先日、図書館で本の問い合わせをしたら丁寧に対応してくれた。こころのつながりができる。

一方で、多くのイベントによる職員の健康管理が心配である。

委員：県立でも山陽小野田市の取り組みを参考にしている。他市に山陽小野田市を紹介することもある。

学校システムとの連携は具体的にどんなものか？

館長：教育委員会も含めてこれから検討していくが、学校図書館と公立図書館が一体化し、県内初のものとなる。学校間の貸し借りも活発になり、「見えてくる」ことが大きい。

委員：市全体が一体化となるといろいろなことができる。G I G Aもかませる先進的なシステムになる。

委員：東京理科大学は図書館と連携して様々な行事を行っている。学校として「地域貢献」をうたっているので今後も協力したい。「生涯学習センター」がオープンするので新しいプロジェクトも考えたい。

5、今後の日程について

令和4年度は第4次計画策定の年であることを説明。

6. 閉会